

1 はじめに

本校の特別活動における重点目標は、「①豊かな人間関係を基盤として、望ましい集団活動を育てる。②心身の調和のとれた発達と、主体的な活動を通して、ひとりひとりの個性の伸長を図る。③集団の一員としての自覚を深め、規律と責任をもって、自発的、自治的に活動できる児童を育てる。」の3つである。そこで、各種委員会の活動を児童主体となるよう支援し、本校の特別活動における目標達成を図った。

2 実践例

(1) 委員会活動

ア 図書委員会

- ・「読書わくわく週間」（図書委員会による読み聞かせ）

学校全体で読書活動の充実を図り、朝の活動時間を活用して1年生～4年生を対象に、図書委員会による読み聞かせを実施した。また高学年を対象に記念図書館の方の読み聞かせを行った。

イ 運営委員会

- ・「ハッピースマイル大作戦」（人権集会）

人権、個性の大切さをもとに、各学級でスローガンを作成し発表した。運営委員会による、人権をもとにした劇やクイズを行い、全校児童の人権感覚を高めた。

また、花びらの形の紙に、全校児童一人一人が思いを込めたメッセージを記入した「じんけんの木」を作成し、掲示した。

〈メッセージ〉

「ピンクの好きな男の子、サッカーの好きな女の子、おかしくないよ」
(5年生)

「差別せず、なかよくげんきにがんばろう」(4年生)

「まわりの人をたいせつにしよう」(3年生)

(2) 異学年交流

ア 縦割り班活動

- ・月に一度、縦割り班遊びを実施した。毎月、高学年を中心に遊びの内容を計画し、異学年同士の交流を深めた。

3 成果と課題

〈成果〉 児童の自発的、自治的な活動を充実させることで、一人一人の集団所属意識が高まり、望ましい人間関係を育成することができた。

〈課題〉 本校では児童数が年々減少傾向にあり、児童主体の活動の場を新しく設定する必要がある。

